



平成 30 年 2 月 14 日 定例会発表要旨

## 人類 700 万年の旅と日本人の源流

手稲郷土史研究会会員(星置在住) 後藤 崇和氏

私、高校生であった時、世界史の人類の進化は、猿人、原人、旧人そして新人の順に進化していったと教わった。しかし、今の教科書にはその項目はない。そして、500 万年前に人類は発生したと教わったが、今では 700 万年前に人類が登場する。

サルとの違いは、二足歩行をするかどうかである。1856 年にドイツのネアンデルタール谷で人類化石が発見された。それが我々の祖先の化石であった。当時は、人類が進化するという考えは無くナポレオン戦争で亡くなった人の骨かもと考えられていたが、1859 年にダーウインの「種の起源」が発表され、その中で「人類の起源にも光が当てられるであろう」と曖昧な表現であったが、1871 年に「人類の進化と性淘汰」の発表では、人類はサルから進化したとの結論にたどり着いている。



当時は、神がすべての物のパターンを決めているとの考えが有り、神を冒瀆するものだと、大非難を受けた。が、進化論が受け入れられると、その世紀の後半から 20 世紀にかけて東アフリカ、南アフリカ等で人類化石が多数出土するに従って、人類の進化の過程が、少しずつ解明されるようになった。そして我々の祖先、「ホモ・サピエンス」が、20 万年前に出アフリカをし、以後全世界に拡散していった。

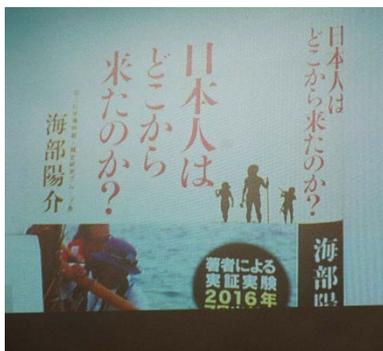
日本には、ヒマラヤ山脈の南側を経由して、約 3 万 8 千年前頃南西諸島に到着したようだ。又、北側を経由した、ホモサピエンスも 3 万年前頃に北海道に到着した。

元々は、同じホモサピエンスであったが、色々な環境の違いで、肌の色が違ったり、顔の形が違ったり等同じホモだとは思わなかったかもしれない。その祖先が、1 万 6 千年前頃縄文土器を発明した。

それを使用したのが縄文人と言われ、全国に広まって行ったのであ

ろう。又、南回りのサピエンスも南西諸島を経由して九州方面から本州方面に拡散していった。ところが、3 千年前頃に朝鮮半島方面から、農耕文化の人々が九州から本州に到来したとされた。この考え方では、前から住んでいる縄文人が、農耕文化を広めた弥生人に土地を奪われて、北上、南下して人類が 2 分されたという。この考えを埴原和郎教授らが 1980 年代に提唱した。これを「日本二重構造論」という。要は、北と南は、アイヌと隼人である人種、中央が弥生人となり、今の我々の祖先であると。それに対して、元々、同じサピエンスが色々な環境を経て、少しずつ変化した人種であり、それが日本人の源流であるとする考えがある。

現在は DNA 解析で一個人の遺伝子情報(ゲノム)が明らかにされる時代に入り、より正確に人類の祖先等を探せる事になり、人類がいつ、どこで、如何に変化したか(進化)が解明されることになった。



サピエンス全史のユヴァル・ノア・ハラリを借りれば、人類は農耕を始めたが、農業革命は狩猟採集社会よりも過酷な生活を人類に強いた、史上最大の詐欺であった。云々世界の人類は、姿かたちは違えども、みなホモ・サピエンスの仲間である。

## 平成29年度「一年を振り返って」

手稲郷土史研究会 会長 茂内 義雄氏

### ● 定例会

今年度は、月2名から1名の講師発表となり、時間の余裕が持て大変良かったのででないか。発表時間も60分から90分ぐらいであった。時間制限は必要。

部外講師の招聴4名も含め、発表内容の高まりは、会員一人ひとりが今後の学習へ大きなきっかけを提供していただいた。裏づけ資料の豊富さは、いつまでも発表者に教えを請いたい気になる。定例会当日、会場の準備、後片付けには参加者全員の手助けもお願いしたい。

### ● 研修旅行

江別方面でした。隣町といえ、手稲以外から出歩くことが少なくなりつつある私どもです。今回も初めて目にするのが沢山ありました。企画する者も参加する者も楽しみながら次回も協力し合い実施したいものです。

### ● 区の歴史資料展示コーナー

ガラスケース内展示 手稲中央小学校借用資料 1～6 月末まで壁面掲示資料は区の主導で行う 次回は「馬鉄関連資料」提供予定

### ● 特別事業への取り組み

「手稲記念館」収蔵品展示会など三大事業として実施した。会発足以来の大事業とも思われる。取り組みについては、例会や会報で報告済み。

### ● 三研究グループ活動

「新川・運河部会」「北海道造林研究会」「手稲石の会」 それぞれ活動継続

### ● 会報の発行

毎月、取材・編集校正・次回への企画と休む間もなく複数頁で発行。充実した内容で世界? へ発信している。

### ● 各種団体からの講師依頼

会への要請は事務局が継続して対処する。

### ● 資料整理

熱心なボランティアの方が資料の整備を進めています。将来まとまったら冊子にまとめ、会員の活用に役立てたい。

### ● 手稲の歴史的遺産調査

「稲積農場（稲積家）、直系澤口由美子氏、菅原直研究部長が大方調査済み。

前回 30 年 2 月 14 日会報第 122 号の訂正  
2 頁中 6 行目から文中  
誤、建設当時は手稲町内（西野）であったが  
正、建設当時は手稲町内（宮の沢）であった

次回の予定  
4 月 11 日（水）  
平成 30 年度  
第 13 回定期総会  
手稲区民センター  
第 1・2 会議室